

(平成28年 10月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水 産 物 全 般	10月の水産物は、さんま、秋さけ等の漁獲が低調な魚種が多く、全体の漁獲量が低下した。 そのため、10月の総入荷量は、前年同月に比べると鮮魚、冷凍魚、加工水産物の全てで入荷量が下回り、全体として8%下回った。 取扱金額は、前年同月に比べると鮮魚、冷凍魚、加工水産物の全てで減少し、全体として4%下回った。
(区分別の動向) 鮮 魚	10月の鮮魚の入荷量は、前年同月と比べ9%下回ったことから、平均単価は6%上回った。 品目別には、前年は漁獲不振となったよこわ、かつおが今年は好漁で入荷が上回ったため、価格は値下がりした。ぶり、あまだい、ひらめ、するめいか等は漁獲の減少により入荷が下回ったため、価格は値上がりした。 秋さばの時期となったが、今年は大型サイズが少なく、中、小型サイズ主体の入荷となりそうである。また、よこわ、ぶり、さわら等もこれから冬に向けて徐々に脂が乗る時期である。
冷 凍 魚	10月の冷凍魚の入荷量は、前年同月と比べ13%下回ったことから、平均単価は7%上回った。 品目別には、冷さけは価格が若干値上がりしたが、荷動き良く、入荷は上回った。海外養殖えびは値上がりしたため、需要が低下して入荷は大きく下回った。 11月は新物ノルウェー産冷さばの国内搬入が始まり、今期も大型が少なく中型主体の入荷となるが、脂の乗りが良く人気の食材である。アメリカ産紅さけは今期も豊漁であったが、海外の需要が旺盛で日本向けは大きく減少する見込みである。

加 工 水 産 物	10月の加工水産物の入荷量は、前年同月と比べ4%下回ったが、荷動きが低調で、平均単価は前年並みであった。 品目別には、開干さんま、干ささかれい、干水かれいは入荷が大きく減少したため、価格は値上がりとなった。開干あじ、丸干ししゃもは、入荷が上回ったことから、価格は値下がりした。塩銀さけ、塩さんまは若干の値上がりとなったが、需要が多く、入荷は上回った。 11月は、6日にかに漁が解禁となり、浜ゆでされたゆで丸がに(オス)、ゆでせこがに(メス)が7日より入荷となる。棒だらも8日に近畿地区一斉入札があり、いよいよ冬の味覚の到来である。また、北海道地区の秋さけ漁は、主要海域で11月末までに終了となる。昨年に引き続き不漁となっており、魚卵製品であるいくら、筋子の価格が値上がりしている。
-----------	---

※生鮮魚：鮮魚，貝類，淡水魚

※冷凍魚：冷凍魚（鯨肉を除く）

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	長崎，京都で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ１３％下回ったため，価格は４％上回った。
ま い わ し	愛知，三重で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ８％下回ったため，価格は２５％上回った。
さ ば	静岡，石川で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ５％下回ったが，小型サイズが多かったため，価格は２６％下回った。
す る め い か	北海道，長崎で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ８８％下回ったため，価格は６２％上回った。
太 物	入荷量は前年同月と比べ本まぐろは前年並みであったが，めばちまぐろは３０％，きはだまぐろは１２％下回ったことから，太物類の総入荷量は前年同月と比べ１１％下回ったため，価格は６％上回った。
よ こ わ	青森，長崎で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ７０％上回ったため，価格は１９％下回った。
ひ ら め	韓国，青森で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ３４％下回ったため，価格は２７％上回った。
(冷凍魚主要品目)	
冷 さ ば	入荷量は前年同月と比べ１１％下回ったため，価格は２％上回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ５３％下回ったため，価格は５３％上回った。
(加工水産物主要品目)	
塩 さ ば	入荷量は前年同月と比べ１１％下回ったため，価格は４％上回った。

干 か れ い	干ささかれいは、入荷量は前年同月と比べ３０％下回ったため、価格は６２％上回った。干水かれいは、入荷量は前年同月と比べ４８％下回ったため、価格は２３％上回った。その他の干かれいでは、えてかれいを主体に入荷量は前年同月と比べ８３％上回ったため、価格は２２％下回った。
---------	---